

平成 7 年 9 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

オフシーズンの巣箱

9 月是一年中で、最も野鳥が目立たない季節になります。繁殖期（春～初夏）の雄は、雌を呼んだり、自分の縄張りをアピールするために、大きな声で囀ります。また、巣作りやヒナにエエサを運ぶため、行動も活発になります。繁殖期の過ぎた今、鳥たちは目立たずひっそりとしています。もう暫くすると、今度は冬鳥たちが渡来するため、鳥の種類も個体数も増え、再び鳥が目立つようになります。この季節、気になるのが野鳥たちの繁殖のために設置された巣箱。山道を歩くとたくさんの巣箱を見ますが、その大半は繁殖期が終わっても、木に付けられたまま放置されているようです。

野鳥が巣箱を利用するのは繁殖期、つまり子育ての時期だけで、秋～冬にかけては「ねぐら」として一時的に利用するのみです。鳥はその巣を、人間の住居のように、定住する場所としては使いません。繁殖期が終われば、繁殖に使った巣箱は回収し、中の巣材を捨て、箱内を熱湯などで消毒する必要があります。そうしないと、巣箱の中で、ダニや寄生虫が増え、次のシーズンの繁殖に悪影響を与えます。

巣箱を利用するのは、主にシジュウカラやヒガラ、ヤマガラなど木の洞や物の隙間に営巣する鳥たちです。これらの鳥が巣箱内に集めた巣材の量や内容を調べると、種類による違いや周辺の環境による巣の作り方の違いを確かめることができます。同時に、巣箱を開けてみると、鳥以外にもいろいろな生き物たちが、巣箱を利用していることが解ります。例えば、ネズミは大量の落葉を運び込んで巣にしますし、巣箱の底にコウモリの糞が溜っていることもあります。ムササビが巣箱の穴を拡げて入り込んでいるかと思えば、スズメバチの集団の巣になっていることもあります。あるいは、それらの複数の生き物たちが使った形跡が残っている場合もあります。

巣箱を設置する場合のマイナス面として、巣箱を利用できる鳥のみを増加させてしまう、という欠点があります。モズやヒヨドリが巣箱に営巣することはありません。しかし、巣箱は、鳥以外の生き物にもいろいろと利用されているようです。野鳥用の巣箱は、その穴と全体の大きさにより、利用できる鳥の種類がほぼ限定されます。しかし、作り方をほんの少し工夫すれば、鳥だけでなくもっとたくさんの生き物の「巣箱」として利用できそうです。同じパターン

の巣箱だけでなく、いろいろな形状の巣箱を作り、細かに観察すると、意外な結果と効果が得られえる可能性があります。

(文責 桜岡)

・ 新刊図書のお知らせ

『増補改定 青梅市史 上・下巻』

定価 上・下巻セット 13,000 円 (バラ売りはしていません)

11月1日より発売。現在、予約受付中。

予約できる書店 多摩書房 (二俣尾)、幸福書房 (河辺、東青梅)、ブックス多摩 (青梅)。
駒屋書店 (青梅)